

国語 第6学年 言葉について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：助詞や語順を変えた文を読み比べ、誰が何をするか、どの語がどこにかかるかが伝わり方に関わることを確かめる。日本語を他言語より優れていると評さず、実際の文の働きとして特徴を説明する。B(1)ウの学習として、日本語の特徴を説明する短文。元の文と変更した文、伝わる内容の違い、誤解を避ける書き方を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、実際の文の比較を基に、日本語の特徴が読み手に分かるように説明の書き表し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：日本語の特徴を説明する短文を残す。元の文と変更した文、伝わる内容の違い、誤解を避ける書き方を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：語順を自由に変えても意味はいつも同じだと言い切る。助詞の違いを音の違いとしてしか捉えない。これについて、教師が作った短文で主語・述語・修飾語を確かめ、語句カードを並べ替える。変えた箇所だけを印で示す。外国語との比較を行う場合は学級で確かめられる表現の範囲にとどめる。〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(1)カとB(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「語順や助詞を替えると、同じことが伝わりますか。意味が変わる所と、強く伝わる所を区別して説明できますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：日本語の特徴を説明する短文は紙に記録できる。元の文と変更した文、伝わる内容の違い、誤解を避ける書き方を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：助詞や語順の規則を全て教えるのか。

返し：〔知識及び技能〕(1)オ・カとB(1)ウに沿い、具体例を比較して表現を選ぶ学習にする。日本語全体の例外のない規則を児童の少数の例から導かない。

指摘 10： 振り返りを感想だけにしないためには。

返し： 「語順や助詞を替えると、同じことが伝わりますか。意味が変わる所と、強く伝わる所を区別して説明できますか」 への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

